

# 地域営農集団の育成と 安定化のためのマニュアル策定

## 1. 調査のねらい

地域にある諸々の農業資源の有効利用を目途とした地域営農集団の育成と安定的・効率的運営のためのマニュアルを策定する。

## 2. 調査の方法

県内の優良集団のデータを分析項目の基準として診断システムを策定した。なお、この策定にあたっては、栃木県農協中央会営農部と共同して平成3～5年度に検討した。

## 3. 調査結果及び考察

### (1) 診断システムの全体構成

診断内容は4つの主目的指標と7つの分析指標で構成され、さらにそれぞれにいくつかの分析項目が配置されている(図-1)。

### (2) 診断の流れ

当診断システムはパソコンを活用し、自動的に分析結果や改善事項が出力されるようになっている。しかし、その良否は正確な基礎データの整備にあるので、分析に必要なデータ収集にあたっては農業改良普及センター、農業協同組合等の指導機関と集団員との協調関係が必要がある。また、診断を単に行うだけでなく、分析結果や改善事項をもとに十分な話し合いをするなど検討を重ねることが重要となってくる。

これらをふまえ、本システムの流れを示すと次のようになる。

#### 1) 基礎データの収集及び調査表の作成

集団員からの聞き取り調査や書類の閲覧によって調査表を作成する。

#### 2) パソコンへの入力

調査表が完成したら、システムを立ち上げ、調査項目を入力する。

#### 3) 全体分析、部門別分析結果の出力

入力が終了したら、全体分析、部門別分析結果を出力する。

#### 4) 改善事項の出力

さらに、調査集団の今後の改善点を出力する。

#### 5) 事後指導及び検討

この分析結果に基づいて集団を指導する。

### (3) 診断結果の評価

分析結果は、まず全体分析が図-2のようにレーダーチャートで示され、外側の実線が理想値である。次に、部分分析が分析指標ごとに文章化して表示される。

## 4. 成果の要約

生産現場の指導者が集団活動を支援、指導するためのマニュアルとして活用できる診断システムとした。当システムはパソコンを利用し、自動的に分析結果や改善事項が出力され、一目で分かるようになっている。  
(担当者 企画経営部 斎藤一治)

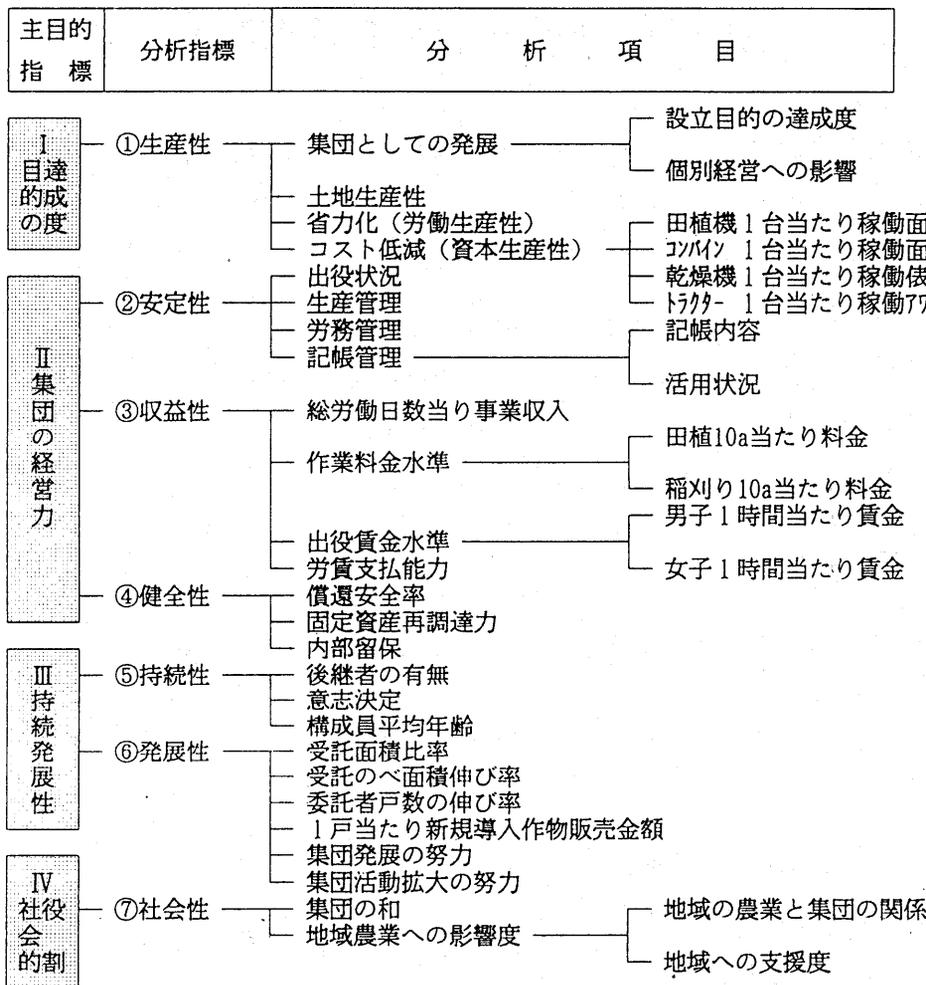


図-1 診断システムの主目的指標、分析指標、分析項目関連図

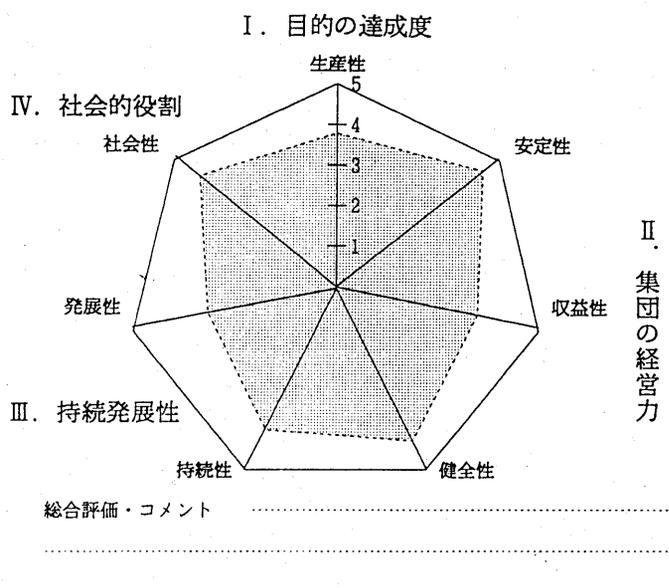


図-2 全体の分析